

蒲生干潟の地形調査①⑥

■右岸左岸とも堆積が進む河口付近



Fig.1 蒲生干潟全景 110m上空からドローンによる撮影

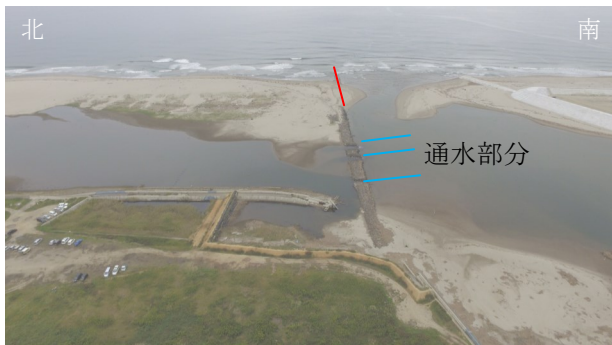


Fig.2 河口付近の様子



Fig.3 護岸ブロックに積もった砂（東側から撮影）



Fig.4 東側通水部の様子（西側から撮影）



Fig.5 中央通水部の様子（西側から撮影）



Fig.6 西側通水部の様子（南側から撮影）

調査日 2016年10月5日（水） 10：00～12：00 ※干潮時刻11：10（潮位74cm）

干潮時間帯に、ドローンによる空撮、GPSによる簡易測量、塩分濃度測定、植生調査をおこなった。GPSによる簡易測量結果の掲載は割愛するが、台風通過直後に調査した8月の結果と比べて潟湖の面積は縮小していた。

Fig.2, Fig.3からも分かるように河口付近では、右岸、左岸ともに堆積が進み、河口が狭くなっていた。またFig.2, Fig.3中の赤線は護岸ブロックがあった位置を示しており、左岸側の護岸ブロック付近では堆積の進行は顕著であり護岸ブロックは砂で埋め尽くされていた。

またFig.4～Fig.6に示したように、導流堤にある3つの通水部分の流れの様子を見ると、東（海側）に行くほど流れが急になっていた。